

This page Is Inserted by IFW Operations
And is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of
The original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
Please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

⑫ 公開特許公報 (A) 平3-221030

⑬ Int. Cl. 5

A 61 B 5/022

識別記号 庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)9月30日

8932-4C A 61 B 5/02

335 F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 血圧計

⑯ 特願 平2-17170

⑯ 出願 平2(1990)1月26日

⑰ 発明者 寺田 晴博 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

⑰ 出願人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地

⑰ 代理人 弁理士 石田 長七 外2名

明細書

1. 発明の名称

血圧計

2. 特許請求の範囲

[1] 弯曲したカフ帯に血圧計本体を一体に装着した血圧計であって、カフ帯の上面に取着された血圧計本体の一端側を他端側に比べてカフ帯の弯曲方向に沿って延出し、この延出部分に人体の血圧測定可能な部分へのカフ帯装着時の把持部を形成して成ることを特徴とする血圧計。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明はカフ帯の上面に血圧計本体が取着され、カフ帯と血圧計本体とが一体となった血圧計に関するものである。

[従来の技術]

近年、カフ帯1の上面に血圧を表示する表示部分13等が設けられた血圧計本体2を装着した一体型の血圧計Aが種々提供されている。例えば第

9図に示されるようなものがある。このものはカフ帯1の上面に箱形に形成された血圧計本体2を取着して構成してあり、使用するにあたっては、第9図に示されるようにカフ帯1を人体の血圧測定可能な部分イ、例えば腕に巻き付けて装着し、血圧を計測するようになっている。

[発明が解決しようとする課題]

しかし上述のような従来例にあっては、装着時に血圧計本体2を持って装着するのか、カフ帯1を持って装着するのかがはっきりせず、使用上不便さを感じることがあり、カフ帯1を持って装着する場合、カフ帯1を腕に巻き付けるようにして血圧計本体2を所定位置に位置させるには血圧計本体2が移動しやすくて装着しにくいという問題があり、また、血圧計本体2を持って装着する場合、血圧計本体2には手で持つための把持部が予め形成されておらず手で持ちにくいものであり、この結果、装着しにくいという問題があった。

本発明は上記問題点を解決しようとするもので
あり、その目的とするところは、血圧計本体を持つ

て装着することで手間取ることなく簡単に人体の血圧測定可能な部分に血圧計を装着することができる血圧計を提供するにある。

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明における血圧計Aは、カフ帯1の上面に取着された血圧計本体2の一端側を他端側に比べてカフ帯1の湾曲方向に沿って延出し、この延出部分に人体の血圧測定可能な部分イへのカフ帯装着時の把持部3を形成したものである。

【作用】

血圧計Aを人体の血圧測定な部分イに装着するにあたっては、血圧計本体2に予め形成された把持部3を持って血圧測定可能な部分イに装着する。このように把持部3を持つことで直接血圧計本体2を持ってぐらついたりすることなく血圧計Aを血圧測定可能な部分イに装着することができる。

【実施例】

以下、本発明を図示された実施例に基づいて詳述する。

うなことがなく、血圧計Aを手間取ることなく腕に装着することができるようにしてある。血圧計本体2の内部に収納配置される電気部品は第3図に示されるように収納してあり、あまり厚み寸法を取らず軽量の回路部品5は血圧計本体2の中央に配置してある。把持部3内には血圧測定時にカフ帯1を膨張させるためのポンプ6、電池7等の比較的容積を取ると共に重量のある部品を収容してある。このように把持部3内に重量のある部品を収容するようにしてあると把持部3を持って血圧計本体2を人体の血圧測定可能な部分イに装着する場合には安定した状態で血圧計本体2を手で持つことができ、ぐらついたりすることなく血圧計Aの装着を行うことができるものである。把持部3の側面には第4図、第5図に示されるように滑り止め部分8を形成してある。第4図に示されるものにあっては、指で押さえる把持部3の側面に複数の突条8aを設けてあり、この突条8aによって滑り止め部分8を形成してある。第5図に示されるものにあっては、指の形状に合わせて曲

血圧計Aは第1図に示されるように湾曲したカフ帯1の上面に血圧計本体2を取着して形成してある。4はカフ帯1を腕等の人体要所に巻き付けて固定する場合に使用する止め片であり、カフ帯1の一端より連出してある。血圧計本体2はカフ帯1の長手方向に亘る中心に位置するようにカフ帯1の上面に取着してあり、下面はカフ帯1の湾曲に沿うように凹状に曲成してある。この血圧計本体2の一端側は他端側に比べてカフ帯1の湾曲方向に沿って延出させてあり、この延出された部分に手で持つための把持部3を形成してある。そして、人体の血圧測定可能な部分イ、例えば腕に血圧計Aを装着するにあたっては、第2図に示されるように把持部3を手で持つてカフ帯1を腕に巻き付けるようにして血圧測定可能な部分イに装着するものである。このように把持部3を手で持つて腕に装着することができることにより、血圧計Aを構成する比較的重量のある血圧計本体2を直接手で持つて血圧計Aを腕に装着することができ、ぐらついたりして位置決めを行いにくいというよ

面部分8cを有する突起8bを突設してあり、この突起8bによって滑り止め部分8を形成してある。図示された実施例にあっては、複数の突条8aや突起8bによって滑り止め部分8を形成したものと示してあるが、このもののみに限定されるものではなく、エンボス加工等によって滑り止め部分8を形成したりしてもよいものである。

そして、使用時にはカフ帯1の一端より連出された止め片4を固定手段9にて固定することでカフ帯1を人体の血圧測定可能な部分イに巻回して装着することができるようにしてある。

第6図には固定手段9の一実施例を示してあり、このものにあっては、止め片4に雄側の面状ファスナー10aを設けてあり、把持部3の側面に雌側の面状ファスナー10bを設けてあり、これらの面状ファスナー10によって固定手段9を構成してある。そして、装着時にはカフ帯1を人体の血圧測定可能な部分イに巻き付けた状態で止め片4を第6図中想像線にて示されるように上方に巻き上げ、雄側の面状ファスナー10aと雌側の

面状ファスナー10bとを接着することで装着するようにしてある。このとき、把持部3側に位置するカフ帯1の表面にも面状ファスナー10を設けてあり、接着が確実に行なわれるようにしてある。

上述した実施例にあっては、止め片4に離側の面状ファスナー10bを設け、把持部3の側端面に離側の面状ファスナー10aを設ける場合を示したが、止め片4に離側の面状ファスナー10aを設け、把持部3の側端面に離側の面状ファスナー10bを設けるようにしてあってもよい。

第7図は固定手段9の他の実施例を示すものであり、このものにあっては、固定手段9は把持部3の側端面に突設されたフック受け9aと、このフック受け9aに引掛係止されるフック9bとによって構成してある。フック9bには止め片4の先部を挿通することができる通し孔11を設けてあり、フック9bは止め片4の先部を通し孔11に挿通することで止め片4の先部に設けてある。そして、この通し孔11によって長さ調整部分12を形成

分に装着することができるものである。つまり、表示部分13が目で見える向き(装着部分が腕である場合には腕の上面側)に表示部分13が位置するように血圧計本体2を配置すると血圧計本体2が装着されることなく装着されるものである。

[発明の効果]

本発明の血圧計は叙述のようにカフ帯の上面に装着された血圧計本体の一端側を他端側に比べてカフ帯の湾曲方向に沿って延出し、この延出部分に人体の血圧測定可能な部分へのカフ帯装着時の把持部を形成してあるので、使用時に血圧計を人体の血圧測定可能な部分に装着するにあたっては、血圧計本体に予め形成された把持部を持って装着することができ、このように血圧計本体を持って装着することができることによって血圧計本体を装着位置に位置決めしやすいものであり、ぐらついたりして装着に手間取るようなことがないものであり、装着しやすいものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の斜視図、第2図は

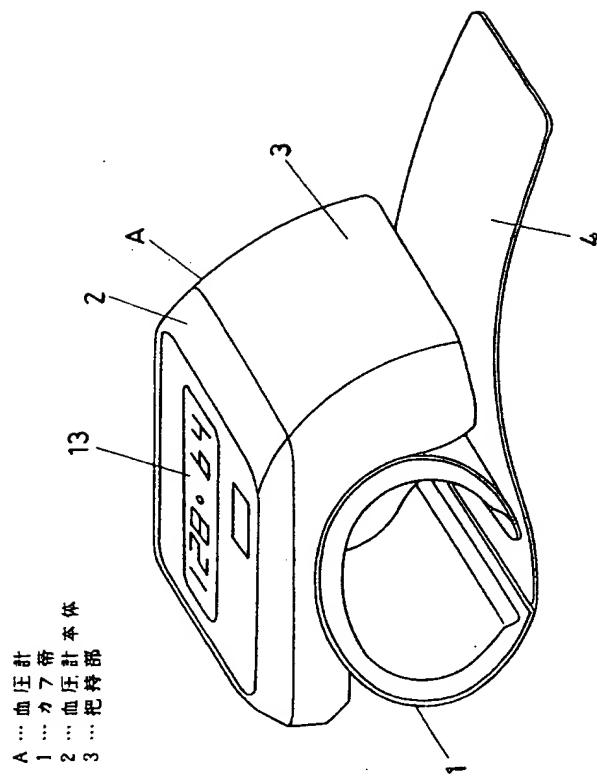
してあり、通し孔11に挿通される止め片4の挿通深さを調整することでフック9bの取付位置を調整し、止め片4の長さを調整することができるようにしてある。そして、装着時には止め片4の長さを人体要部1の大きさに合わせて予め調整した後、カフ帯1を人体の血圧測定可能な部分1に装着し、フック9bをフック受け9aに引掛係止する。次いで通し孔11に挿通したカフ帯1の先端を引っ張って長さ調整を行い、カフ帯1の固定を確実に行なうことができるようにしてある。

第8図にはカフ帯1の上面に取着された血圧計本体2と血圧計本体2に設けた表示部分13の配置状態を示してある。血圧計本体2はカフ帯1の長手方向に亘る中心に位置するようにカフ帯1の上面に取着してあり、また、測定した血圧を表示する表示部分13も中心部分がカフ帯1の中心線上に配置するようにしてある。このように構成してあると表示部分13が特定の向きを向くように血圧計本体2を装着すればカフ帯1が位置ずれを起こしたりすることなく人体の血圧測定可能な部

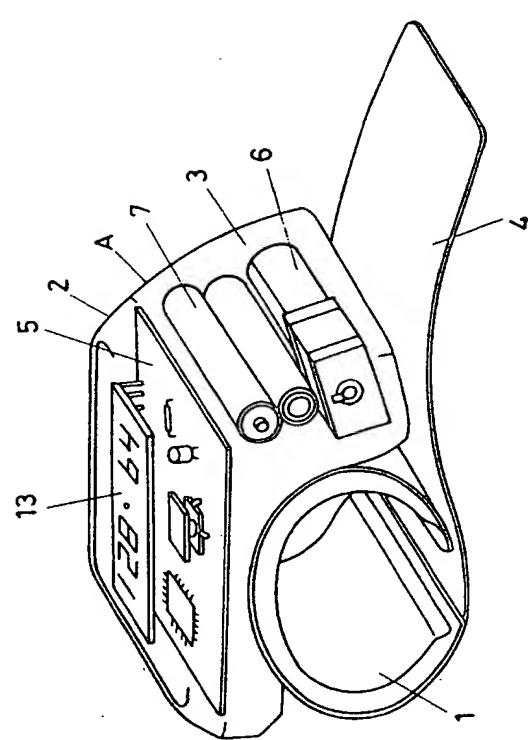
同上の手で持った状態を示す斜視図、第3図は内部構成を示す斜視図、第4図、第5図は把持部に形成された滑り止め部分の各実施例を示す一部切欠した斜視図、第6図はカフ帯の固定手段を示す側面図、第7図は同上の他の実施例を示す側面図、第8図(a)(b)は血圧計本体及び表示部分の配置状態を示す平面図、側断面図、第9図は従来例の斜視図であって、Aは血圧計、1はカフ帯、2は血圧計本体、3は把持部である。

代理人弁理士石田長七

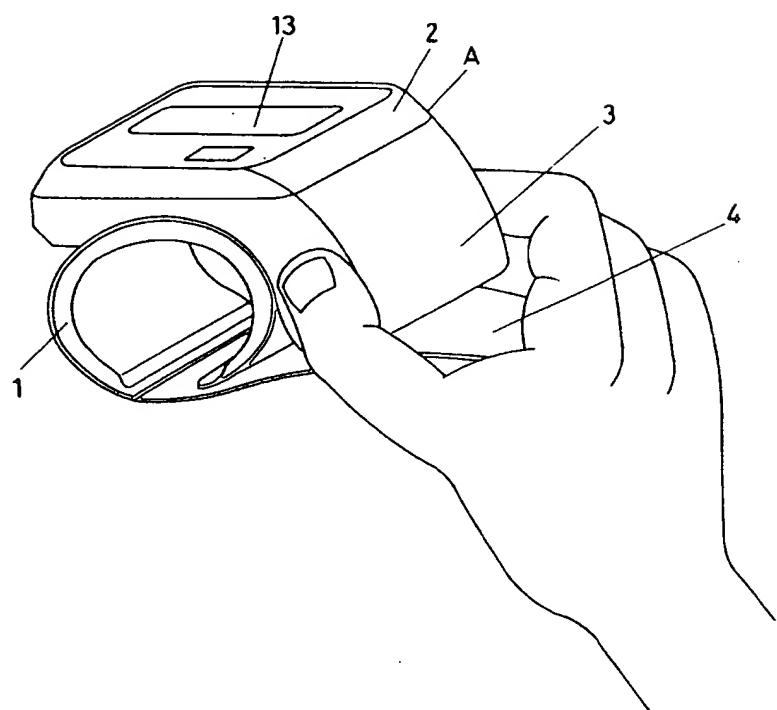
第1図



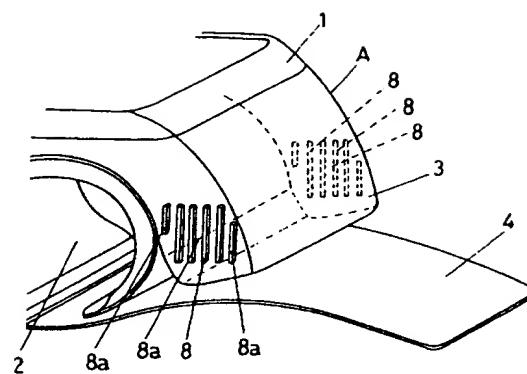
第3図



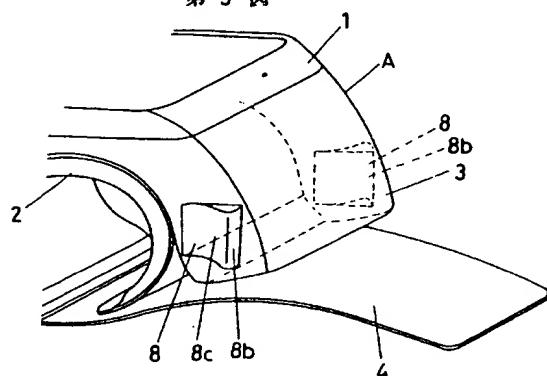
第2図



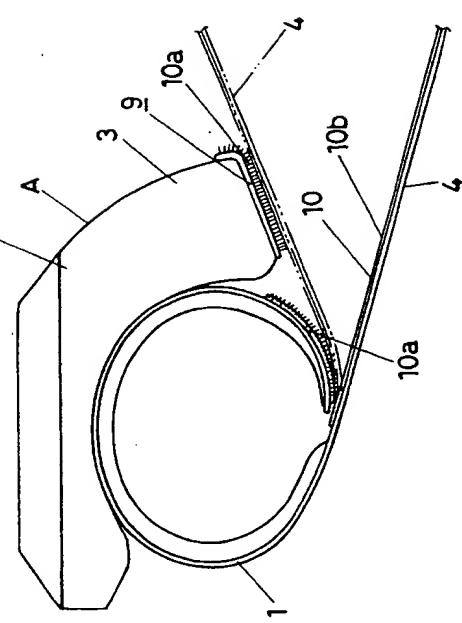
第4図



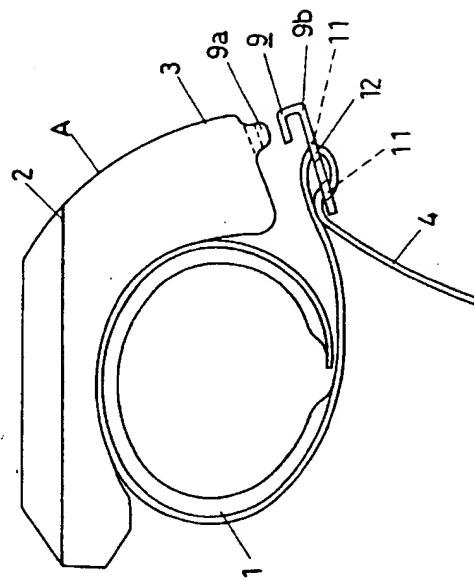
第5図

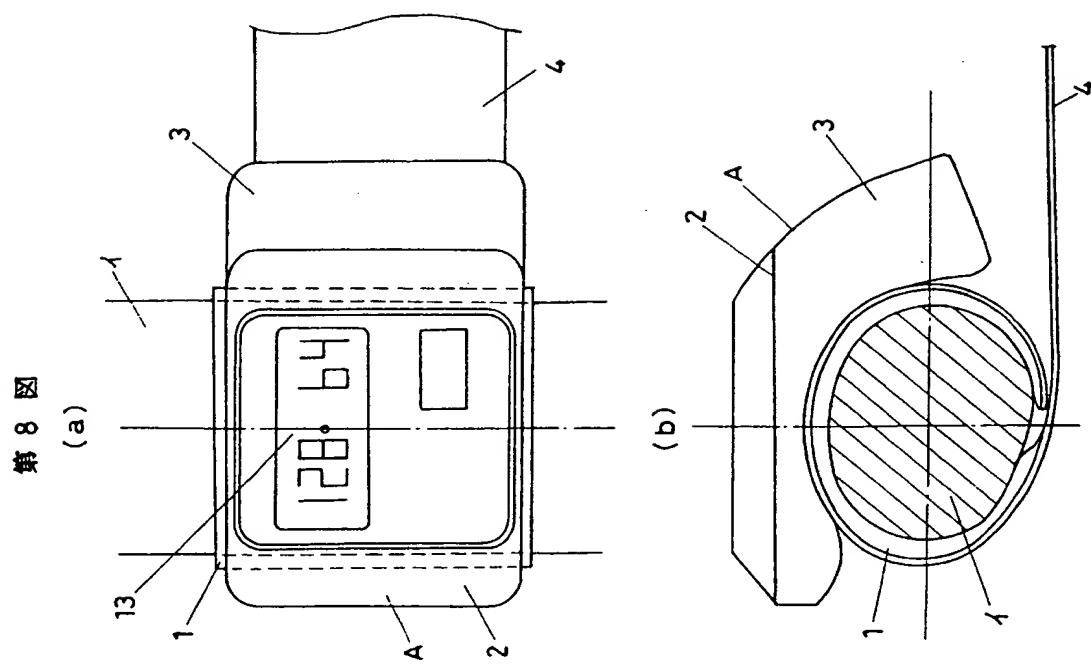


第6図



第7図





第9図

